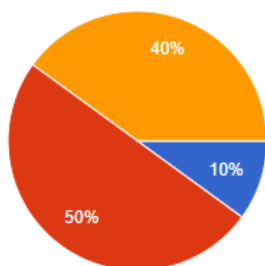


アンケート結果を受けて

以下は6月13日（火）の「不登校・不登校傾向対策委員会」終了後のアンケート結果です。次回の研修内容にも生かしたいと思います。また、併せて以前掲載できなかった感想も掲載しますのでご覧ください。

1.本会で重点的に取り扱ったらよいと思うものを選んでください。

※講師招聘や協議の参考に致します。



- 不登校・不登校傾向の実態の把握
- 不登校・不登校傾向の適切な対応の方法
- 不登校・不登校傾向の未然防止の方策

このような結果にはなっていますが、後手に回ってしまわないように、実態把握と未然防止のための学級経営、予防的・開発的生徒指導も実践していく必要があると思います。

○参加者の感想

- ・まずは、不登校・不登校傾向が深刻な実態であることを数値で実感しました。特に、調査報告や吉田先生のお話にあった、不登校（不登校のルート）が変化・多様化してきているということを自分自身感じることが増えてきています。不登校に対する考え方や支援の仕方など、社会の変化や個に応じた柔軟に対応していくことが必要であると、今日の会を通じて感じました。また、吉田先生には本校 SC としても大変お世話になっています。的確な見立てや助言はもちろんです。認知行動療法など専門性を生かした個別対応は、学校職員では限界があります。自分たちも知識や技法を学び、身につけていきたいと思いますが、今後も、SC や SSW, その他の機関と積極的に情報を共有し、多角的でより効果的な支援に繋げていきたいと思っています。
- ・本校では不登校に該当する児童は現段階ではいませんが、吉田先生の講話のなかであった不登校になりやすい子の特徴に当てはまる児童は数名いました。不登校を未然に防ぐためにも、児童の問題行動の裏側に、承認欲求不満などの背景がある可能性を学校全体で把握し取り組んでいく必要があると感じました。保健室来室状況や遅刻・欠席状況等のデータや普段の児童の様子や表情を見取り、小さなサインを見逃さないようにしたいです。グループ協議では、自分だけでは思いつかなかった支援の手立て・対処法を学ぶことができ、支援会の重要性を改めて考えることができました。
- ・居場所のある、安心安全な学級づくりをすることや、不登校の原因解消についてはたらきかけることはもちろんですが、原因解消後にも不登校を選択した場合、我々はその「選択の支援」に切り替えていくべきなのではないだろうか日々考えています。決して放任するわけではなく、本人や保護者の不安や悩みを聞き取り、その不安を解消し、必要な学びの機会を与えていく支援がいるのではないかと思います。不登校をうまくない取り組みはもちろん大切なことです。ですが「うち是不登校数少ないよ」「これくらい改善しているよ」「チーム学校ですぐ会議してるよ」というだけでなく、「不登校児童生徒はいるけれど、そのうちの多くの子供達がそれぞれの場所で自分が学びたいことを学んでいるよ。」といえる須崎市になれることも大事のように思います。自分たちが何ができるのか。何をすべきか、研究していきたいと思っています。
- ・行動原理から不登校について講話をして頂き、不登校になりやすい子どもの傾向に思い当たる子どもがいて、これからどのように支援を行っていけばよいのか参考になりました。スモールステップで、それぞれの子どもにあった支援を行っていききたいと思います。また、SC の先生方等に気になる子どもの様子を伝え、相談しながら支援方法を考えていきたいと思いました。また、グループ協議で、他校の先生方とどのような支援が適切か話し合いをもつこともでき、いろいろな支援方法に気づくことができました。

- ・吉田先生の講話で、不登校になりやすい子の特徴や介入の仕方の例などがわかり、とても勉強になりました。
- ・不登校になりやすい子の特徴が、不登校やその傾向のある児童によく当てはまっていると思った。事前にリスト化して、気にかけてみていくことが未然防止につながると考えた。
- ・とても面白い内容でした。養護教諭にも生かされる内容で有り難かったです。専門用語があり、分かったようでわからなかったのが、演習よりこういうケースではこういう方法があります。など、方法も知りたかったです。

ICTのとびら

<新莊小学校の1年生の様子>

「プレイグラムタイピング」を活用して、ホームポジションから練習をしています。小さな手で、一生懸命タイピングを練習する様子は微笑ましかったです。小中学生が記述できる文字数は、発達段階にもよりますが手書きであれば、平均 50～60 文字/分程度だと言います。タイピングの良さを生かすのであれば、60 文字/分以上を目指してタイピング練習をする機会を設けることも大切です。児童生徒は私たちが思っている以上に吸収が早く、ゲーム感覚でタイピングスキルを向上させます。授業の中で、タイピングをする場面をつくってみてはいかがでしょうか。



<業務での活用>

ICT の活用は授業だけの話ではありません。日々の業務でも、ICT を活用することで効率化を図れるものがたくさんあります。1つ例として「長期休業中の動静表」をご紹介します。もう既に実施している学校もあるかもしれませんが、まだ活用されていないようでしたら是非ご活用ください。もっと効果的な活用方法があれば、ぜひ共有していただきたいと思います。

そのほかの活用方法について、既にご覧になられた方もいらっしゃるかもしれませんが、授業での活用と業務での活用それぞれについて、資料をいただいておりますので共有したいと思います。



授業での活用



業務での活用



動静表